

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 戸ノ上 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

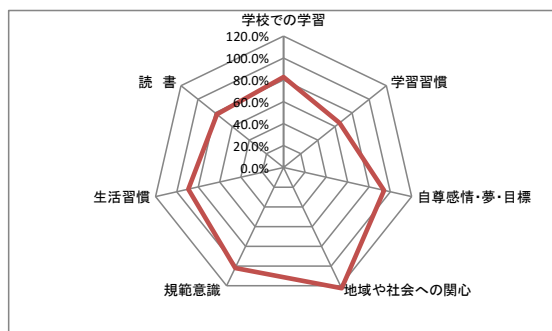
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章理解に関する問題で、県平均を大きく下回っている。文字で説明する問題は、無回答率が高くなる傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	好きな短歌を一つ選び、感じたことや考えたことを書く問題	
	努力が必要な問題	文章の構成や展開、表現の仕方などを理解・整理し、自分の考えをもつ問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	文章問題などの活用に関する問題の方が正答率が低い。自分の考えや解き方の説明を記述する記述式の問題の無解答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	“数と式”と“図形”に関する問題	
	努力が必要な問題	“関数”と“資料の活用”に関する問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	「聞く」「話す」に関しては正答率が高い問題もあるが、「書く」力に課題が見られる。文法の知識、語彙の理解不足の傾向が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「話すこと」に関する問題で、月日を回答する問題	
	努力が必要な問題	指定された単語数で題意に合わせて自分の考えを自由記述する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○学校の決まりを守ったり、いじめはどんな理由があってもいけないと考えたりすることができるなど、規範意識の高い生徒が多い。
○地域の行事の参加率が高く、地域や社会への関心が高い傾向が見られる。
○自分のよいところを発見するという自尊感情の高低に個人差が見られる。学校行事や学級活動、部活動等を通して、個々に応じた自己肯定感を高めていくことが必要である。
○授業中に積極的に自分の意見を発表したり、話し合ったりすることが苦手な傾向が見られる。
○全国平均に比べ家庭学習の時間が大幅に少なく、自分で計画を立てて学習する等の学習習慣づくりを行う必要がある。
○本や新聞を読む習慣が少なく、読書等を通して文章に慣れ親しむ習慣づくりを行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業の中に少人数での交流活動を多く取り入れ、自分の意見を発表したり話し合ったりする場を保障する。
- 朝読書の取組を実施し、読書に慣れ親しむ習慣づくりを図る。
- 宿題及び自主学習ノートの取組を充実させ、家庭での学習習慣づくりを図るとともに思考力・判断力・表現力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 食育指導等を通して、充実した学校生活を送る上での「食の大切さ」、「朝食の重要性」について啓発を図る。
- 生活リズムが崩れないように、スマホ、ゲームなどの使用について家庭でのルールを決めるよう生徒、保護者に周知する。
- 学校からの様々な通信や懇談会等を通して、基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組について理解を図る。